



“地域と連携した食育” ～本校の特色ある教育活動～

今週始めから梅雨に入り、毎日曇りや雨の日が続いております。子どもたちは毎日元気に学校生活を送っておりますが、プールに入れない日が多く少々残念がっている様子も見受けられます。一方で、この時期の雨は田んぼや畑の農作物にとって、なくてはならない大変貴重なものでもあります。

本校では、JAかすみや茨城大学農学部の学生の方々にお世話になりながら、サツマイモやジャガイモ、ヤーコン、ゴーヤなどの作物を育てています。作物が生長するのと同時に、これらの体験を通して、子ども達一人一人が大きく成長してくれることを願っています。



子供たちの生活を「自立」の視点で見直す

一学期も折り返し地点を過ぎました。子供たちは、すっかり学校生活に慣れ、毎日元気に学習に運動に励んでいます。今回は、子供たちの将来の「自立」に目を向けて、子供たちの生活を見直してみたいと思います。

今の子供たちは、私が子供の頃と違って、実に豊かな生活の上で暮らしています。

- おいしくて、好きな食べ物がたくさんある。
- 遊ぶ物（ゲーム・遊具・玩具・スポーツ用品）も周りには山とある。
- やりたいことをやりたいときに好きなだけできる。
- 必要な物は、お金を出せば何でも手に入れることができる。

でも、子供たちの心は、なんだか不満ばかりたまっているように見えて仕方ありません。生活が豊かであれば心も広くなり、人とのつながりができて良さそうなのに、

- ちょっとしたことですぐにキレる。
- 気に入らないことがあると、しばらく無視する。
- いやなことをされても、はっきりといやだという気持ちを伝えることができない。

このように、人とのつながりは、むしろ薄れてきてコミュニケーションが上手にできなくなってきています。物が少なく貧しい時ならいざ知らず、どうしてこのようなことが起こるのでしょうか。子供たちは、あと10年もすれば自立した大人になって社会に出て行くことが求められます。その時大切なのは、

- 社会のルールに従う。
- 周りの人の気持ちを考え、周りに合わせる。
- 自分の主張をしっかりとる。

学校の役割は、子供たちが、立派な大人になるための準備をするところであり、そのためには訓練が必要です。学年の発達段階に応じて、自分の思い通りにならなくても、我慢するということを学ばせることが大切だと考えています。

- 自分の嫌いなことであっても、学級の集団で一緒に何かをすることができる。
- 友達の意見を受け入れながら、グループで話し合って何かを決める。
- みんなで決めたことはそれに従って最後までやってみる。

これらができるような子供に育てたいと常々考えています。でも、油断していると子供たちのペースにはまってしまう。

- 給食で嫌いな物が出ると一切食べない。
- 嫌いな人や気が合わない人とは話をせず、かかわろうとしない。
- 面白くないことには見向きもせず、仲間に入ろうとしない。
- 身体が辛くなったり、面白くなくなると、すぐにやめてしまう。

子供たちの生活は、豊かな生活の中で負の側面が出てしまっているような気がします。我慢することを忘れてしまっています。これでは、人とのコミュニケーション能力は育ちません。子供たちの生活を「自立」という視点で見直してみることが大切だと思います。

☆ 学校通信等は、阿見二小ホームページにも掲載（カラー版）していますので、ご覧下さい。

※「阿見第二小」で検索するかアドレス【<http://www.town.ami.lg.jp/category/9-4-0-0-0.html>】を入力ください。